

発行日 令和元年 7月 19日

横浜市立上の宮中学校 横浜市鶴見区上の宮 1-26-33 TEL045-582-8801 FAX045-585-9914

<http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/jhs/kaminomiya/>

### 校訓

## 1学期を終えるにあたり

努力  
自律  
敬愛

学校長 金井孝澄

みなさん素晴らしい体育祭をありがとうございました。みなさんの優勝を目指し、競い合う中にもライバルに敬意を払い自分の成長を促す存在として捉える姿やたとえ順位が低くともあきらめず最後まで全力でやろうとする思いに感動をいたしました。さて、いよいよ夏休みです。部活動や宿題などで忙しい夏休みを過ごすことと思います。1年の中で特に成長のチャンスが夏休みです。1学期の学習成績を見て、しっかりと目標と計画を立てて実行していくことが重要です。「なりたい自分」に近づける方法は計画的に学習することと家の手伝い(日常生活で誰かの役に立つこと)です。生徒の皆さんにとって無駄なことは一切ありません。成長の材料に必ずつながっています。



「実行委員長として」

体育祭実行委員長 3年 村瀬 颯太

今回で三度目の体育祭、そして三度目の体育祭実行委員になりました。今回は一年、二年と一緒にやってきたメンバーとは少しかわり、三年生で初めての委員になる人が入りました。二年間経験している私が体育祭実行委員長としてまとめることになりました。最初、初めての人や一年生は緊張しているようにみえましたが回数を重ねる毎に緊張はほぐれ仲が良くなっていくように感じました。そして準備なども徐々に終わり、予行練習も無事に終わると、後は本番の体育祭だけになりました。体育祭当日、実行委員のメンバーは早めに集まり最終チェックをただけで解散をしました。しかしこのあとに三年実行委員の男子は少し集まりまた色々なものの準備や本番の動きについて話していました。

そして体育祭が始まりました。最初の方は自分達の競技や準備、片付けなど、順調にいましたが二年生の競技のところではゼッケンが足りないなど少しトラブルが続きましたが、なんとか切り抜けられたのでよかったと安心することができました。体育祭も終わりに近づき、あとは

三年生のソーラン節になりました。私は、ソーラン節をする前に行う口上を行う役でした。そこでお世話になっている親や地域のみなさま、先生達に感謝していることをお伝えすることにしました。予行練習では、かんでしまっていたので本番ではかまないようにしようと思い一言一言しっかりと言うことで最後まで言い切ることができました。最後の閉会の言葉では、言おうとしていたことを忘れてしまい詰まってしまいました。最後までなんとか言い切れてよかったです。私達のクラスは、総合優勝はのがしましたがみんなでやりきれたことが何よりの思い出です。

私は、体育祭実行委員長として様々な素晴らしい体験ができたことを誇りに思います。



3年ソーラン演技



1年馬の背渡り



2年スクラムリレー

### 上中生の活躍

鶴見区大会第二位 女子バスケットボール部

鶴見区大会第三位 男子バスケットボール部

鶴見区平和スピーチコンテスト 優秀賞 3年 太田二葉

鶴見区社会を明るくする運動講演会(鶴見公会堂 6月30日)で本校2年生六本木優花さんの作文が区の代表として当日朗読することとなりましたので全文をご紹介します。

### 理解のある社会へ

横浜市立上の宮中学校 一年 六本木 優花

「社会」は小さな子供から私たち中学生、お年寄の人達、いろいろな人達から成り立っています。そのいろいろな人達の中には、障がいを抱えて生きている人達もたくさんいます。でも、一般社会はすべて、健常者を中心に世の中が動き、考え方もそういう障がいのある人は忘れられがちで、逆に偏見という目の肩身の狭い思いをして生きているのではないかと私は思います。

例えば、今年の二月に行われた平昌オリンピックとパラリンピックの盛り上がり方の違いは明らかで、障がいをもつ弟がいる私は、とても悲しく考えさせられました。

私の弟は、「自閉症」という障がいをもって生まれました。自閉症とは、先天的な脳の障がいです。私の弟は、脳の発達がおくれていますが素直で優しくてきれい好きでとてもすてきなことばかりです。百人に



一人が自閉症をもっていると言われていました。それだけに現在の社会においては障がいについての理解をもっと深めることがまず、誰もが安心して自分らしく生活できる穏やかな毎日を送ることの大切な第一歩ではないかと思います。

今から十年前に生まれた弟に自閉症が見つかった時、母はとても悲しみ、苦しみました。「これからどうやって生きていけばいいのか。子供と一緒に死んでしまおうか。」と何度も思ったそうです。でも、生まれた弟のすやすや寝入る安らかな顔を見て、母は、「子供がとてもかわいいので、これから私が頑張っていけばいいのだ。」と考え直したそうです。そして、母は同じような障がいをもつ人達と「自閉症」についての情報を共有し、話をして、少しずつ不安を解消していったそうです。この母の話聞いて私は、このように障がいをもって困っていることや苦しんでいることがあったら一人で抱えこまずに、できれば、健常者の人達も障がいの人の生の声を聞いて、みんなで話し合い、理解しあうことがとても大切ではないかと考えます。目や耳、手足の不自由な人のために公共施設のバリアフリー化が確かに以前よりは進んでいます。しかし、施設を造り、障がいのある人のための環境を整えることはとても助かるありがたいことですが、それ以上に、障がいについて理解することは、もっと必要なことだと思います。世の中にはいろんな人達がいろんな病気や障がいを抱えて生きているということを私たちは社会の一員として忘れてはならない事実だと思います。そして、一人ひとりがいつ自分もそういう環境に置かれるのもわからないと、真剣に障がいについて理解を深め考えていかなければ、本当の意味の「明るい社会」は実現しないと思います。「明るい社会」とは誰もが平等に安心して毎日を笑顔で暮らせることだと思います。

母はよく、「弟が大きな声を出してしまったり走り回ったりすると、まわりから冷たい視線で見られることがまだよくある。もっと多くの人が病気や障がいについて知ってくれたらいいのに。そういう人が増えたら本当に嬉しい。」と外出から帰ってくる度に私に話します。

同じ人間として生まれ、普通に社会の一員として白い目で見られることなく生活できること。どんな人も人間らしく生きていくことができたらどんなにすばらしいことでしょう。より多くの人が病気や障がいについて知り、理解を深め、あたたかい声をかけたり、手を差し伸べて助けてあげることができたら、誰もが安心して笑顔になれると思います。そのために、そういう呼びかけを形として取り組み実践してほしいと強く望みます。テレビのCMでそういう呼びかけキャンペーンを流していくのもよいと思います。

いじめや残忍な心を痛めるような幼児殺害などの犯罪が増えています。そんな中で、人が人を思いやる優しい心を持ち、協力し、理解しあえば、本当の意味の平和な世界を実現することができます。だから私は、いろいろな機会に障がいについての理解を国語のスピーチなどで友達に訴え、身近な所から明るく理解のある社会になるよう社会の一員として努力していきます。

鶴見区平和スピーチコンテストが7月2日に行われました。本校からも3年の代表太田二葉さんが出場し、優秀賞をいただきましたので、全文をご紹介します。



## PTAの皆さんからのプレゼント

PTA 学年学級の皆さんが七夕飾りをプレゼントしてくれました。生徒の皆さんの願いが書かれた短冊を一つひとつ丁寧に飾っていただきました。皆さんの願いが叶いますようにと豪華なものになりました。季節感を感じさせる素晴らしいプレゼントに感激しました。

8月の予定

8月27日 第二学期始業式 防災訓練

8月28日～30日 教育相談 9月2日～ 読書週間 9月6日7日個別支援学級区合同宿泊学習

## 二つにとらわれない性

横浜市立上の宮中学校 三年 太田二葉

あなたは「男」と「女」、性別は二つだけだと思いませんか。ご存知の方もいると思いますが、この世の中には「性」の種類がとてもたくさんあるのです。私があることを知ったのは、インターネットでネットサーフィンをしていた時に会った記事を見た時のことでした。その記事には「タイの性別一覧表」と書かれてありました。そしてサブタイトルには「男女だけではない！！18の性」とあり、無知な私はその見出しにとても驚きました。以前からテレビの特集番組で「レズビアン」や「バイセクシャル」など言葉として少しは聞いたことはありましたが18も区分できるなんて思ってもいませんでした。そして「性」とは何かとても興味を湧いてきました。私はもっと種類があるのではないかと思い、調べてみることにしました。するとア



メリカのフェイスブックではいわゆる性的マイノリティと呼ばれる人々を配慮するため男性女性以外にもカスタムジェンダーとして58種類のオプションが追加されていることを知りました。それをみると以前よりこういった配慮があることで性的マイノリティの人々が生きやすい世の中になったのかなと思いましたが、同時に少人数である彼らはいまだに偏見を持たれたり、差別を受けたりする人もあることを知って悲しい気持ちになりました。性的マイノリティだと自認している人は日本人口の 7.6%で、左利きの人と同じ割合である

ことも記事で知りました。そう考えると日本では自分の性を周りに公言している人はとても少ないと感じます。その人たちは周りとの違いに苦しみ、偏見に恐れているかもしれません。そう思うと当事者には日本はとても住みにくい国だと思いました。私は以前 twitter で性的マイノリティの方が男性トイレに汚物入れがあることに「感動。こういう配慮は私たちみたいな人には本当に助かる」と書いたツイートを見ました。ちょっとした想像力を働かすことができたなら、マイノリティの方たちも住みやすい社会になると思いました。私は偏見をなくし、誰もが素敵な人生を歩めたらいいなと考えています。そして、「性」のことだけでなく、あらゆる面で互いに認め合える社会になることを願っています。

## 良風会総会・地区懇談会が行われました。



6月18日に良風会総会(学校・家庭・地域連携事業実行委員会総会)・地区懇談会が地域の皆様・PTA の皆様・近隣の学校関係の皆様をお招きして行われました。本年度より地区別の生徒の代表が決まりましたので、1年生の代表が自己紹介させていただきました。各学校の様子や地域での生徒の様子などをうかがうことが出来て有意義な日となりました。多くの方にご参加いただきありがとうございました。

## 英語教育プログラム SEPRO が行われました。

6月28日29日の二日間に渡り、近隣校のAET(アシスタント・イングリッシュ・ティーチャー)を招き生徒6人に一人の外国人講師がついてコミュニケーションを取るプログラムが行われました。少人数で行われるこのプログラムは市で積極的に取り入れ、区内の中学校の協力で行われています。

